

マテリアルキュレーション：材料情報の俯瞰的編集・活用法

Materials Curation: An Innovative Method for Material Search

物材機構¹ ○吉武 道子¹National Inst. Materials Sci.¹, ○Michiko Yoshitake¹

E-mail: yoshitake.michiko@nims.go.jp

1. はじめに

「マテリアルキュレーション」は、ごく最近使われ始めた「キュレーション」という言葉をマテリアルに対して適用しようと、発表者が作り出した造語である¹⁾。「キュレーション」という言葉は、美術館や博物館で展示物の収集や展覧会の企画を担当する専門職を指す「キュレーター」という言葉に由来する。キュレーターの行っている“①既存のコンテンツの意味を捉えなおし、②選択・絞り込み・結合・編集を行い、③新しい価値・意味づけ・文脈をユーザーに提供する”ことを「キュレーション」と呼ぶ。これは、爆発的に増加する情報に埋もれる知識を有効活用する手法としてビジネス界で注目されつつある。

2. 科学技術におけるキュレーション

科学技術の世界で既存のコンテンツの編集というと、学会誌などにおけるレビュー記事や特集記事を思い浮かべると推測されるので、それらと「キ

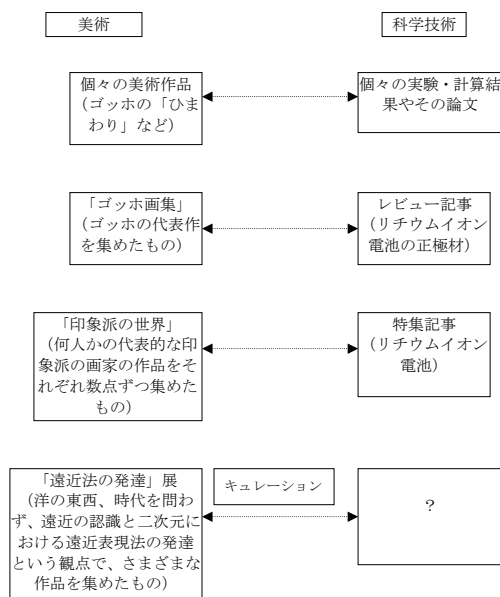


図1 美術の世界と科学技術の世界における、コンテンツやコンテンツのまとめ方の対応関係とキュレーションの位置づけ

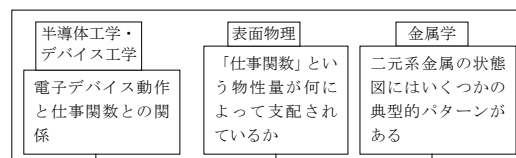
ュレーション」が概念としてどのように異なるかを美術の世界と比較する形で図1に示す。

3. マテリアルキュレーションの例

電子デバイス用電極の仕事関数を、電極の組成により制御する方法に関して発表者が行った方法を、マテリアルキュレーションの例として図2に示す。特徴的なことは、必要な知識・知見を「半導体工学」「表面物理」「金属学」という別々の学問分野から横断的に選択・結合し、電子デバイスの特性制御に方法論を提供したことである。キュレーションの最大の特徴は、“データを新しい視点から俯瞰的に選んで編集し、新しい意味づけをする”ことである。

1) 「機能材料」2月号掲載予定 (シーエムシー出版)

①既存のコンテンツの意味をとらえなおし



②選択し、絞り込み、結びつけ、編集し、

③新しい価値・意味づけ・文脈をユーザーに提供

図2 二つの金属を混ぜて電子デバイスの電極材料の仕事関数を調整する場合の、金属の選択方針に関するキュレーション